

改 訂 版

☆☆ ★ ☆☆ ★ ☆☆ ★ ☆☆ ★ ☆☆ ★ ☆☆ ★ ☆☆

第6回数理社会学会大会プログラム

日時 1988年10月11日(火) 8:50-17:30
会場 東北学院大学泉キャンパス(仙台市市名坂天神沢9-1)
TEL. 022-375-1111 EX. 200
大会委員長 竹内 彰啓(東北学院大学教養部)

☆☆ ★ ☆☆ ★ ☆☆ ★ ☆☆ ★ ☆☆ ★ ☆☆ ★ ☆☆

大会参加費は、一般会員が1500円、学生・院生会員が1000円です。また、
この他に、昼食代1000円が必要です。

なお、不明の点につきましては、下記まで、電話またはファクシミリで
お問い合わせ下さい。

大会の運営：委員長・竹内彰啓／副委員長・片瀬一男(東北学院大学)
(TEL. 022-375-1111, FAX. 022-375-4040)

プログラム：研究理事・海野道郎(東北大学文学部行動科学研究室)
(TEL. 022-222-1800 EX. 2671, FAX. 022-221-5207)

【10月11日】

I. 8:30 開場・受け付け開始
8:50 開会 大会委員長 竹内 彰啓(東北学院大学)

9:00-10:00 研究報告(I)、オープン・セッション
司会 小林 淳一(福岡大学)
富山 慶典(常磐大学)

1. ゲーデルの証明における形式化と有限回帰的構成
—近代社会における形式化の探求のために—
国崎 敬一(松山商科大学)

II. 10:00-10:45 ポスター・セッション(この時間外も、期間中、随時)

- A. リーダーシップ研究とファジイIPM研究 藤内 稔(学習院大学)
- B. 「社会的ジレンマ」における被害の認知 木村 邦博(新潟大学)
- C. 入会いを巡る社会的ジレンマと社会的コンフリクト 三隅 一人(九州大学)

III. 10:45-14:15 フリートーキングとミニ・シンポジウム(途中に昼食時間を含む)

A. フリー・トーキング「権力研究の課題と展望」

司会 志田基与師(金沢大学)
参加予約 木村 邦博(新潟大学)
都築 一治(流通経済大学)
橋爪大三郎
他

B. ミニ・シンポジウム「階層意識：SSM調査からの飛躍」

司会 和田 修一(早稲田大学)
指定討論 岡太 彰訓(立教大学)
山口 弘光(松山商科大学)
佐藤 嘉倫(横浜市立大学)
野呂 芳明(社会保障研究所)

IV. 14:15-15:00 総会 司会 古谷野 亘(桃山学院大学)

V. 15:00-17:30 研究報告(II)、オープン・セッション 司会 平松 閑(九州工業大学)
白倉 幸男(北海道大学)

- 1. 回顧データの信憑性について 原 純輔(横浜国立大学)
- 2. イベント・ヒストリー分析の企業研究への応用 高瀬 武典(関西大学)
- 3. 人口移動の非対称多次元尺度構成法による分析 岡太 彰訓(立教大学)

17:30 閉会 大会副委員長 片瀬 一男(東北学院大学)

★★★ ご案内 ★★★

◎フリートーキングとミニ・シンポジウム

今回大会から、新しい形態の企画が二つ登場します。「フリートーキング」と「ミニ・シンポジウム」です。この二つは、形態こそ若干違いますが、目標と精神を共通にしています。形式主義からの脱却、そして実質的討論の深化——これは、すべての学会において実現されるべきことですが、とくにわれわれの数理社会学会においては、不斷に追求されなければなりません。発足の趣旨からいっても、学問の性質からいっても、そのように思われます。既存の企画との関係でいえば、「シンポジウム」にも耐えられるような重要課題を、「ラウンドテーブル・セミナー」のようなりラックスした雰囲気のなかで行おうとしています。そのことによって、実質的に深い内容の議論を実現させようとしているのです。

今回登場した二つの企画はまた、既に発表された論文を基盤にして新たな展開を追求する、という点においても、共通の目標を持っています。そしてのことから、参加者に対して共通の要望をすることになります。それは、議論の対象となる論文を予め読んでおいてほしい、ということです。もちろん、このことは、論文を読んでいない人を議論から締め出す、ということを意味するわけではありません。大切なことは、この学会の場が、一人一人の会員の学問を深化させ、発展させることなのです。

◎ポスター・セッション

前回好評だったポスター・セッションが、引き続き登場します。実験や調査の結果、あるいはモデルなどを「ポスター」で掲示し、それをめぐって討論します。この形態の発表は、密度の濃い議論が期待できますので、われわれの学会にはふさわしいのではないかと思います。今後、ますます多くの会員が活用することを期待します。

◎オープン・セッション

オープン・セッション（飛び入り部会）も、引き続き設置します。これは、学会の活性を確保するための一つの方策です。われわれの学会は、完成された研究だけでなく、形成途上のモデルやちょっとしたアイディアをも発表することを奨励していますが、それでも、自由報告では事前に申し込みをし報告要旨を提出することが義務付けられています。これに対して、このセッションでの発表には何も制約がありません。つまり、「3日前に発見した分析結果」、「昨晩ひらめいたアイディア」をも発表できます。どしどし発表し、学会の活性化に貢献してください。発表希望者は、発表の種が出来次第、研究理事（海野）まで、口頭（電話）で申し込みをしてください。もちろん、それは、当日の朝でもかまいません。ポスター形式の発表でも構いません。この試みを、せひとも成功させ、学会の柔軟性を促進したいと思います。

★★★ セッション 内容紹介 ★★★

● フリー・トーキング「権力研究の課題と展望」

司会 志田基与師（金沢大学）

『理論と方法』第4号の特集《権力現象——権力を維持し、内蔵し、産出する制度——》に寄稿された6本の論文を「肴」にして、権力研究の方法ならびに最前線の知見について、ざくばらんにインテンシブな議論をたたかわせようと思います。準備段階で司会者が把握している参加予約者は、特集の寄稿者と、旧数理社会学研究会権力班（海野・原・和田編『数理社会学の展開』参照）のメンバーなどですが、権力現象に興味をお持ちの方は、たんなる見物も、意欲と決意を持った「道場破り」もどちらも歓迎致します。司会がいくつかの論題を用意しますが、基調報告や討論者といったものは準備しません（司会者も途中から議論に加わる予定です。）のちのち「この会の前と後では、日本の権力研究のスタイルが一変した」と言われるくらい実質的討議が盛り上がりければ大成功。そうでなくとも、各人それぞれの成果を持ち帰れるようなものにはなりうると思います。議論を理解するために、参加予定者は予め『理論と方法』の特集に目を通しておいたほうがよいでしょう。（日本社会学会までには発行の予定ですが、早めに入手ご希望の方はお知らせください。）

（志田基与師）

● ミニ・シンポジウム「階層意識：SSM調査からの飛躍」

司会 和田 修一（早稲田大学）

このミニ・シンポジウムは、本年3月に刊行されたSSM調査報告書『1985年社会階層と社会移動全国調査報告書第2巻 階層意識の動態』についての合評会です。

皆様も既に御承知のように、本報告書の執筆者はわが国社会学会を代表する鋭々たる若手学徒ですので、本シンポジウムでも、その執筆陣容に優るとも劣らない討論者（兼・話題提供者）を整え（岡太彬訓・山口弘光・佐藤嘉倫・野呂芳明の各先生にお願いしました）、充実した内容となるべく努力致しました。

シンポジウムの進行は、なるべく儀式ばらずに、お互いに言いたいことを率直に発言できるよう心がけたいと存じるので、ひとりでも多くの方の出席を期待しております。

なお、会の性質上、上記の報告書を持参のうえ参加願えれば幸いですが、その入手等につきましては、編者である横浜国立大学の原 純輔先生に御一報下さい。

（和田修一）